

カトリック河原町教会だより

2017年10月

洛東ブロック大会 ～キリストに従う共同体作りをめざして～



9月3日11時から、伏見教会に4小教区信徒が集い「洛東ブロック大会」が開催されました。ミサは大塚司教、一場神父、菅原神父の共同司式で行われ、河原町教会からは20名余りが参加しました。大塚司教は説教の中で、この日の福音、マタイ16・24から、『十字架を背負う』ということは、弱く価値のないように思える自分を神の目に尊いと信じ、謙遜に神のみ心を受け入れて従順に従うため、自らの『エゴイズムと戦う』ということです」と語られました。

ブロック大会のテーマは「共同体作り」でした。固有の特色を持った4教会が将来の統合を見据え、それぞれの取り組みや目標、活動を報告しました。

(2ページに続く / 編集委員)

人が義とされるのは律法の行いによるのではなく信仰によるのです。(ローマ3・28)

～宗教改革500年を迎えて～

洛東ブロック担当 菅原 友明神父

今年の10月31日は宗教改革500周年の記念日です。1517年10月31日、アウグスティノ修道会の司祭であり、ヴィッテンベルク大学の聖書学教授でもあった、当時34歳のマルティン・ルターが、ヴィッテンベルク城教会の扉に「95箇条の論題」を貼り出し、これが宗教改革の発端となりました。この出来事から今年でちょうど500年になるのです。

当時の教会には贖宥状しよくゆうじょうを販売するという習慣がありました。贖宥状とは教会が罪の赦しつぐなのための償いの行為を「証券化」したもので、これを買えば自分や故人の罪への罰が軽減されるというものでした。贖宥状の販売促進のための説教師が各地に派遣され、彼らが教皇勅書を掲げながら贖宥状の意味を説くと、大勢の人々はその周りに押し寄せて、誰もが競って贖宥状を買い求めたといえます。

このような習慣については、人間は贖宥状の購入のような「善行」によって救われるのではなく、ひとえにイエス・キリストの十字架の贖いによって救われるのだと考える立場の聖職者が多く、教会内でも議論のある問題でした。ルターも「95箇条の論題」を教会の扉に掲示し、この問題に対する議論を呼びかけたのです。

ところで、ルターは、この6年ほど前、28歳の頃、自らの神認識が大きく変化する内面的体験をしていました。ヴィッテンベルク大学の学生寮の塔の中にある図書館での体験だったため、「塔の体験」と呼ばれています。それまで、ルターは、修士としての厳格な生活を完璧に守っていらながらも、自分が救われるという思いを抱けずに不安と苦悩にさいなまれていたそうです。しかし、ルターはこの塔で、「人が義とされるのは、律法の行いに

よるのではなく信仰によるのです。」(ローマ3・28)という、パウロの言葉に刺し貫かれました。どんなに修行を積んでも、どんなに善行に励んでも、人は罪人のままだけれども、その罪が罪のないイエス・キリストの十字架の血によって贖われた、だから、人はただそのことを信じるだけなのだ。そのことに目が開かれて、ルターは生まれ変わったような思いがしたそうです。救いは神の恵みによるものであり、人間の功績によってではなく、信仰によって人は義とされるという、パウロが聖書で熱心に語っている信仰義認という視界がルターに開けました。

私たちは神に奉仕する生活を望んでいると思います。しかし、実は、奉仕しているのは私たちなのではなくて、まず、神の子イエス・キリストが、十字架上でご自分の血を流して、私たちの救いのために奉仕してくださったのだということ、そこに、パウロやルターが命をかけて伝えようとした福音があるのだと思います。ルターの宗教改革の影響を受け、カトリック教会にも自浄的改革の動きが広まり、1545年にはトリेंट公会議が開催されました。この公会議で、カトリック教会も、人間の行いよりも神の恵みが先立つという、アウグスティヌス以来の立場を再確認しています(※)。なお、もちろん贖宥という教義は今日まで存続していますが、贖宥状の販売はこの公会議で禁止となりました。

宗教改革500年を迎えている今、ルターの宗教改革が私たちに語りかけてくることに耳を澄まして、キリストの十字架に示

されている神の恵みを黙想してまいりましょう。
※『カトリック教会のカテキズム』1987-2016参照



『キリスト降架』ピエトロ・ロレンツエッティ画
(サン・フランチェスコ・ディ・アッシジ教会下堂)

～ひとつになろう キリストのうちにみな～ ブロック大会

ブロック大会では、ミサに続いて昼食後午後1時から「報告会」が行われました。ブロックの短期計画、ブロック合同黙想会、合同教育部会、典礼研修会、平和祈願ミサ等について報告されました。また、桃山教会で開催される「病者のためのミサ」(10月15日)の予告がありました。

続いて4つの小教区によるそれぞれの活動報告では、部会活動、読書会やみ言葉の分かち合い、病者高齢者の訪問、手仕事の集い等がプロジェクター・スクリーンを用いて行われ、他教会のことを知る機会となりました。

一場神父は、「他教会へ参加を呼びかけ合い、各教会の独自性を生かした働きを、時間をかけ、分かち合って長期的に続けることが大切です。そこから独自性を持つ各教会が共に『開かれた教会』となっていくことができるのではないのでしょうか」と話されました。

最後の交流会では「名前の知らない人と知り合いになりましょう」をテーマに4人ずつのグループに分かれて、自己紹介交流の時を持ちました。一つの信仰を与えられ、新しく出会った名前を知らなかった信徒同士の分かち合いは和やかに、あっという間に時間が経ちました。

「父である神に服従したイエスの恵みに招かれた私たちが、謙遜に神の愛にゆだねて応答する」(大塚司教説教の言葉)ができるように、これからのブロック共同体の歩みを神様が導いてくださることを祈りたいと思います。

(編集委員)



—ユスト高山右近列聖に向けて— 『右近と歩む祈りの旅』 ささやかな読書会 から

5月8日から9月11日まで8回にわたり、ささやかな読書会を行いました。毎週ミサ後のお知らせで呼びかけていただいたおかげで、延べ14名の方が参加してくださいました。

テキストを読むにあたってはより理解を深めるために、並行して行われている教区聖書講座での司祭の講話を手がかりにしました。また右近の足跡を具体的に思い描く助けとして、主に古巣馨著『ユスト高山右近—いま、降りて行く人へ』と、歴史・人物ガイド『高山右近—その霊性をたどる旅—』(いずれもドン・ボスコ社発行)を参考にしながらテキストを輪読し、毎回指し示されたテーマに沿って分かち合いを行いました。

以下は参加者の感想です。



- ・日本のキリスト信者の祖とも言うべき高山右近について、いままでいかに知らないことが多かったかを改めて認識した。
- ・こういう場で、複数の人たちと読み分かち合うことで、通り一遍の知識にとどまらず、より深く右近の生き方を理解することができたと思う。

- ・読み進むうちに、右近の苦悩や試練を身近に感じ、それを乗り越えるたびにキリスト者として成長していく右近の信仰のプロセスに共感と感動を味わった。
- ・いままで聖人といわれる人は自分とはかけ離れた遠い存在であったが、このテキストを読むことで当事者の視点で見たり感じたりすることができるようになり、自分ならこんなときどうするだろうと思ひ巡らすようになった。
- ・一回だけの参加でも、違和感なく分かち合いに参加できる雰囲気でありやすかった。
- ・回を追う毎に集まって分かち合うことの素晴らしさに目覚め、毎回読書会を楽しみにしていた。

このテキストは単なる聖人伝ではなく、毎回のテーマやそれに沿った聖書の箇所、そこから何を学び取るべきかのヒントなどが大変よく考えて構成されており、その内容に導かれるままに皆で読み進めていくことで、右近の生きた道筋が、今後の我々の信仰生活に示唆を与えてくれていることに気づかされました。

(越知滋子・平野公子)



『高山右近その霊性をたどる旅』
ドン・ボスコ社/編

平和を願い祈る 「教区中学生広島平和巡礼」 8月5日～7日

今年の夏も教区中学生が集い「広島平和巡礼」が行われました。大塚司教、菅原神父、キム神父と済州教区の助祭と神学生、大塚乾隆神父の引率でした。中学生たちは平和巡礼を通して、多くのことを学び考える貴重な恵みを得ました。

姉妹教区である済州教区からは22名の中学生が参加し教区中学生との大切な交流の機会ともなりました。

河原町教会中学生たちの感想文をお読みください。



◆今回、広島平和巡礼に行き、私は被爆者証言が一番心に残りました。72年前、どんな状況だったのか。どんな気持ちでいたのかものすごく伝わりました。私が広島へ行くのは3回目でした。前回までは原爆が落とされたことが信じられない程怖かったけれど、今回は「知りたい」という気持ちを強くもつことができました。私は班行動の時にリーダーに、爆心地から近い小学校に連れて行ってもらいました。その小学校の一部は資料館になっていて、そこは当時のまま残されていました。床はボコボコで、階段も削れていたりしてとても衝撃的でした。被爆者証言をしてくださった人は、二度とこのようなことが起こらないようにと言っていました。私も本当にそう思います。だから、世界中の人々の平和と幸せを願います。本当に貴重な体験が多い巡礼をありがとうございました。(中2/落合里咲子)

◆僕は今回、広島巡礼に参加しましたが、前に学校の行事で広島福山市に行った時に、原爆体験の語り部の話を聞きました。話してくださったのは広中正樹さんです。広中さんは投下された時、広中さん本人は被爆しませんが、父親の広中一さんは被爆しました。全身にやけどと傷をおい、背中には窓ガラスの破片がびっしりと突き刺さっていたそうです。そんな無残な姿の父が死ぬ直前まで頭にひいていた「枕」が広島平和記念資料館に置いてありました。僕はそれを見た途端、広中さんの被爆体験の話を思い出しました。

戦争は人を殺すだけではなく、家族の楽しい生活まで奪ってしまうのです。今回僕は正直、あまり資料館をよく見る事ができていませんでした。次の広島巡礼ではもっとじっくりと資料館を見ていきたいと思っています。そして、戦争は絶対に起きてはいけないことを、しっかりと自分の心に刻みたいと思います。(中1/古川達也)

◆私はこの広島巡礼で、戦争の身近さと平和の大切さの二つのことを学びました。一つ目の戦争の身近さについては、初めて広島に行ったことで、教科書で学ぶよりも、よりわかりました。原爆ドームを見たり資料館に行ったり、被爆者証言を聞くことで、今自分がいる広島で約70年前に戦争が起こり、多くの人を傷つけたことは決して自分にとって関係のない過去の事ではなく、またいつ起こるか分からない、ものすごく近いものであるということがわかりました。

二つ目は、平和の大切さです。今、私の周りには核兵器や戦争もありません。しかし、他の国では今なお戦争が起こっている国があります。また戦争がなくなるだけが平和に繋がるのではなく、優しさや親切な心を持つことが本当の平和に繋がると思いました。だから、喧嘩をした時や見た時は暴力で止めるのではなく、お互いが納得できる「言葉」という方法を使って解決したいです。今回学んだ二つの事を活かして、周りに優しい気持ちを持って接したいと思いました。そうすることで、自分から周りに広めていきたいと思っています。そして、自分から少しでも本当の平和に繋げていきたいです。(中2/磯部 美羽)



◆「平和」、それは一体どういうものなのか。僕は8月上旬、広島平和巡礼に行った。これは二度目だった。二度目と一度目ではかなり受ける印象が違った。一度目の時はだいぶ緊張していて行程についていくのが精一杯だったように思うが、二度目はだいぶゆとりができ、テーマである「平和」についてかなり考えられた。

今回分かち合いで、すごく考えさせられた質問が出た。それは、「今の世界は平和なのだろうか」というものだ。僕はそれを聞いた時、犯罪などが多発しているので平和ではないと考えた。だが、ある人はこう言った。「日本や韓国は豊かなので平和でしょう」。そう、平和であると思う人も、平和でないと思う人もいるのだ。そして、双方ともそのことを裏付ける証拠となるものがない。だから永遠に考え続けなくてはならない。「平和」というものについて。(中3/古川智也)



土曜学校錬成会 「自然のなかで 神様の愛をいっぱい感じた」

テーマ：“聞く⇒知らせる”～右近とパウロ～

8月8日～10日、土曜学校の錬成会が、京都府南丹市「日吉山の家」で行われました。参加者は小学生17名、中学生8名、高校生2名と大人12名の計39名で、菅原神父様が同行・ご指導くださいました。お祈りとご援助で支えてくださった教会の皆様へ、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

出発する前日、迷走する台風5号の動向にハラハラさせられ、現地のたちと連絡を取りながら慎重に実施するか否かを検討しました。幸い台風は去り、一日目に少し雨は残ったものの後は晴天でほとんど影響を受けることなく、すべて予定通りに実施することができました。今年は、洛東ブロックの他3教会へ積極的に参加を呼びかけ、山科、桃山、伏見からも小学生、中学生、リーダーが参加しました。また2日目には、高山右近のキャラクター“うーこんどの”が参加、カテケージス、飯盒炊爨、川遊び、すいか割り等を皆と一緒に楽しんでくれました。そして「うーこんどの体操」も教えてもらいました。

今年のテーマは、“聞く⇒知らせる”～右近とパウロ～で、みことばを聞いて、イエスさまにならって生き、みことばをまわりの多くの人々に伝えた右近とパウロについて学びました。そして、わたしたちも、この二人のように、まず、どうすれば聞くことができるか、そしてそれをどのように伝えるのかについて考えました。自然のなかで、神様の愛をいっぱい感じた恵み豊かな三日間でした。

(教育部 奥壘さと子)



■一番楽しかったのは、「府民の森」です。ツマグロヒョウモンのさなぎや、ニジゴミムシダマシが見られたからです。日吉ダムには、たくさんのゲートがあってびっくりしました。きもだめしの時はなぜか笑ってしまいました。2日目のカテケージスで、右近はそんなにも神様のことを信じる人なんだなと思いました。川遊びは、見たかった「どんこ」は見られなかったけど、魚もカニも見られて楽しかったです。今日のカテケージスでは、パウロは初めは神様のことを信じていなかったけど、目が見えるようになって神様を信じるようになったので、神様のことを遠くまで教えに行ったのがすごいなと思いました。(小3/掛水 愛弥)

■一日目はおくどさんで火を吹きました。去年はもっと力強く吹いていた気がしたけど、がんばりました。晩ごはんはずかに食べました。きもだめしは、「わぁ～」とか「きゃ～」とか言いすぎました。夜にはうるさくしすぎたけど、2日目はしずかにねました。2日目のカテケージスで、右近のDVDを見ました。右近が友達を殺してしまったから、後悔してイエス様のことを思い出したとか、いろいろ知りました。すいか割りで“うーこんどの”がすいかを割ったのがおもしろかったです。キャンプファイヤーではイントロクイズをしました。3日目のカテケージスでは、パウロのことを学びました。はじめはキリスト教を信じていなくて、パウロという名前だったことにびっくりしました。三日間はすごく楽しくて早かったです。(小4/柳瀬 仁実)



■一日目の電車の中では、外の景色を見ながら楽しく乗っていたけれど、みんなの声が大きくてまわりの人に迷惑をかけたのが残念でした。山の家に着いた時、なつかしく感じました。きもだめしはこわかったけどみんなといっしょだから楽しかったです。

カテケージスでは、高山右近について勉強しました。高山右近は自分の命をかけるまでしてイエス様にしたがったことを知り、とても感心しました。川遊び、すいか割りでは、川の水をかけあってとてもすっきりしました。すいか割りでは“うーこんどの”も参加して、目かくして動いているところがおもしろかったです。最終日のカテケージスではパウロについて勉強しました。なぜパウロは変わったのかということについて、心のウロコがとれて見えるようになったからだということがわかりました。合宿中に習ったことを、どこへ行っても、どんな時でも忘れないで、右近とパウロを見習っていかしたいと思います。(小5/スハディー マイコ)



■ぼくは、この錬成会をすごく楽しみに待っていた。参加は4回目だが、どの年よりも一番楽しい年だったと思う。初めて班長をしたが、下の学年の子やリーダー、サブリーダーたちとコミュニケーションがとれてすごく楽しい3日間だった。

カテケージスでは、右近のことやパウロについて考えることができた。パウロや右近がキリスト教を伝えなかったら、こういう生活もなかったと思う。いつも楽しい生活ができて、生きていることは神様のおかげだということをしっかり頭の中に入れておきたい。この三日間「遊ぶ」「学ぶ」「聞く」というメリハリをしっかりつけることができた。来年はサブリーダーとして来て、違う視点から錬成会を楽しみたいと思う。

(小6/並川 輝)

■今年は去年と違い、サブリーダーとして参加した。今年のテーマは、「聞く⇒知らせる」だ。神父様は真ん中の⇒が重要だと言っていた。自分は⇒について、聞いて知らせるだけではなく、聞いたことと自分が考えたことも知らせることが大切だと思った。聞いたことだけを話すとその話のままで、自分にとって続かない。行動を続けていくことで、目に見えないウロコがとれるのだろう。ウロコがとれたパウロは回心し、神の教えを伝えるようになった。ウロコがとれることで、少しでもパウロ、右近に近づけるだろう。(中1/小杉 肇)

■私はサブリーダーとして、2回目の参加でした。昨年はリーダーや他のサブリーダーに教えてもらったり、言われないと動けませんでしたが、今年は積極的に何をすればよいのか、考えて動けました。神父様の目のウロコの話で、人間の目にはウロコが付いていて、それが取れたり、くっついたり繰り返すことで、周りへの見方を変えることができたり、できなかつたりするとわかりました。今の自分は、2回目になって少しずつウロコがとれてきていると思います。しかし、自分で変わろうとするなど、きっかけがないとウロコがとれていかないので、少しずつでもとれるように、もっと周りを見るなど、変わっていくようにしたいです。そして来年は、もっとスケジュールの動きを把握したり、もっとお手本になれるようにしたいです。

(中3/磯部美羽)

■サブリーダーでの参加は2回目でした。カテケージスでは、6年生で初聖体を受けた私にとっては知らないことも多く、高山右近のことなんて、全くわかりませんでした。けれどもビデオを見てみると、織田信長など、有名な人物と多くの関わりを持っていて、歴史の中でも、イエス様はとても大きな影響があることがわかり、とても興味深くなったし、知りたいと思いました。サブリーダーとしては、まだまだ慣れないし、できないことのほうが多くとても難しかったです。小学生たちといっしょに遊んだり、話したりするのがとても楽しかったので、次回はもっと働いて、遊んで、楽しみながら、しっかり手助けしたいと思います。

(中3/中島夏実)

■サブリーダーとして参加するのは2回目で、前より子どもは少ないけど、仕事が多かったように思いました。中高生のカテケージスは、神父様が担当してくださり、わかりやすかったです。普段見られない生き物などを目にすることもでき、水の音、虫の音がたくさん聞こえ、とても身近に自然を感じることができました。来年は学校が忙しくなるかもしれないけど、参加できるといいなと思います。

(高1/平山 晶子)

教区高校生/夏の体験学習「函館での黙想会」



函館トリスト修道院



8月21日～24日の体験学習は、「祈り」が中心のプログラムでした。祈りについてそんなに深く考えたことがなかったので、知らなかったことをたくさん学べました。黙想も初めてでしたが、すごく自分の心が落ち着いていくのを感じました。高校生会は学校と違ってみんなが平等で、とても楽しい時間を過ごすことができました。修学旅行で北海道に来たときよりもたくさん楽しむことができ、食べ物も美味しく感じました。祈りの学習を通じて、みんなと仲良くなることができました。ずっとこの時間が続けば良いのにとと思うほど、すごく居心地がよかったです。綺麗な建物ばかりで、どの教会もとても神秘的で心が癒されるような場所でした。祈りに人生を捧げている方々の姿を間近で見て、私ももっとたくさんお祈りをしようと思いました。たくさん祈ってたくさん食べて、たくさん思い出が増えた4日間でした。また機会があれば行きたい場所です。この合宿に参加してよかったと、心から思っています。(文と写真:高1/研文乃)

河原町教会9月評議会議事録要約

司祭団から=①9/3の洛東ブロック大会は無事終了し、協力に感謝します。②10/3モンロイ神父帰国まで、平日6:30、18:30のミサは行われぬ場合があります。③10/23(月)～27(金)教区司祭黙想会に菅原神父参加。一場神父は教会に残られます。

小教区評議会役員交流会=①9/2(土)10:30からヴィリオンホールで開催(教区主催)②各ブロックモデラートルから司牧者チームの現状報告③事前に各小教区から出されたアンケート資料に基づき、小グループで分かち合いをした。

洛東ブロック会議=9/3伏見教会で開催 (p1・2参照)

各部会報告=(1)典礼部=①9/3洛東ブロック大会に侍者1名派遣。当日河原町教会ミサは九里神父・ホン神父共同司式②祭壇ろうそく台修繕完了(2)財務部=①維持費納入対策を検討。協力依頼文検討中(3)教育部=①土曜学校:①8/8～10錬成会無事終了②9/2子どもとささげるミサ・始業式、侍者新人研修③中3女子1名が洗礼準備④中高生会:①9/3二学期開始②9/24コーヒーショップ開催予定(メキシコ地震復興支援)⑤信徒養成:①待降節黙想会開催12/2(10:00/指導:菅原神父)②「主日の福音を読む集い」毎日曜日9:30～10:15④ブロック合同教育部会:11/12(14:00)2018年度行事の協議予定⑤教区青年のための黙想会:10/7～8望洋庵で開催⑥ザビエル訪れ会:財務部の要請による訪問は終了(4)施設管理部=①10/15・9:30部会開催予定②10月美化デーで地下6番部屋整理予定(5)広報部=①ウェブサイトのアクセス解析を実施の結果、必要と判断される英語版サイトを公開したい。その他言語についても検討中②教会だよりの隔月発行案を広報部内でも再検討

行事予定=4ページ行事予定欄に記載

協議事項=(1)敬老感謝ミサ・懇親会:①例年通り実施②余興はフィリピン共同体のダンスと歌③教会南側入り口で招待者の車乗降サポートを聖堂係に依頼(2)ロザリオの祈り:10月中毎日曜日10:00から実施。先唱者は役員が選人(3)新聖堂建立50周年行事:①聖堂モニターの使用用途と取り付け方法再検討②聖堂クッション張替え検討③前庭整備を検討④地下各部屋整理は施設管理部に依頼する。⑤香部屋と集会室の水回りの修繕を検討する。

その他=①新設された「男性の集まり」について、過去10年以内の受洗者、転入者に案内状送付②ミサ時間変更については多角的に検討を続ける。③ミッションスクールの学校課題として、生徒の教会訪問が増加しているため対応を検討する。④日曜日の受付当番奉仕について、警備員の時間延長案も含め再検討していく。

◇ 2017年 10月・11月の行事予定 ◇
(11月は予定です。変更の場合があります)

月	日	曜日	行 事 予 定
10	1	日	ロザリオの祈り(10月毎日曜日10:00) 評議会10月例会10:30ミサ後
	15	日	洛東ブロック病者のためのミサ(桃山教会)10:30
	22	日	世界宣教の日・献金
	23	月	～27(金) 教区司祭黙想会
	28	土	洛東ブロック会議(伏見教会)14:00
	29	日	教会美化デー
11	1	水	[諸聖人]
	2	木	[死者の日] 諸死者追悼ミサ18:30
	3	金	第38回京都南部ウォークソン9:30
	5	日	評議会11月例会10:30ミサ後 物故者追悼ミサ(衣笠教会)14:00
	12	日	七五三のお祝い10:30ミサ
	19	日	聖書週間(26日まで)
	26	日	[王であるキリスト]

河原町教会 ミサの時間

日曜日 (主日のミサ)

7:00

10:30

*英語ミサ 12:00 (第2・4週)

月曜日 6:30

火曜日 6:30 18:30

水曜日 6:30 18:30

木曜日 6:30

金曜日 6:30 18:30

土曜日 6:30

18:30 (主日のミサ)

第38回京都南部ウォークソン開催のお知らせ

2017年11月3日(金・祝)

雨天決行

カトリック河原町教会

◇ 受付開始 8:45

◇ 開会式 9:30

◇ スタート 10:00

※ 終了予定 14:30頃

支援金の送り先

1. 東日本大震災支援 (聖ドミニコ女子修道会を通じて)
2. ネパールバンデプール村教育活動資金 (ノートルダム教育修道女会を通じて)
3. ブルキナファソ洪水災害支援 (聖ヴィアートル修道会を通じて)

◇秋の夜長に 心に残る詩の紹介「河野進の詩」から◇

「天の父さま
 どんな不幸を吸っても
 はく息は感謝でありますように
 すべては恵みの呼吸ですから」

「浅い流れは音が高い
 わたしの 祈りよ
 言葉よ
 行いよ
 音が高くないか
 深い流れは音を立てない」

河野進 (1904年～1990年 和歌山県生まれ)

日本基督教団岡山玉島教会の牧師。賀川豊彦の勧めで岡山ハンセン病療養所(長島愛生園)の慰問宣教を50年以上続ける。インド救ライセンター設立運動や、マザー・テレサの「おにぎり運動」に共感、協力尽力した。詩人。

河原町教会「待降節黙想会」に参加しましょう

○日時: 2017年12月2日(土)10:00～16:00

○場所: 河原町教会聖堂

○指導: 菅原友明神父(洛東ブロック担当司祭)

[詳細は11月号に掲載します]



「黙想とは、何よりも聖書の神のことばから始まる、祈りのうちに行われる内省です。黙想するときには、知性、想像、感情、および望みを働かせます。それは、わたしたちの信仰を深め、心を改めさせ、キリストに従う意思を強めるためです。それは主との愛に満ちた一致への第一歩です」

『カトリック教会のカテキズム要約』570

信仰の学びのお知らせ

◇信仰入門講座◇

(1F集会室)

火曜日 10:00 モンロイ神父

水曜日 15:00 (祝休) 一場 修 神父

木曜日 19:00 (祝休) 一場 修 神父

金曜日 10:30 (祝休) 一場 修 神父

19:15 村上 透磨 神父

金曜日 17:30 (洗礼準備講座) 菅原 友明神父

※ご希望の方は教会事務室までご連絡ください

◇洛東ブロック信徒養成講座◇

【河原町教会】 第1土曜日 19:30～20:30

菅原 友明神父

【伏見教会】 毎火曜日 10:00ミサ後～11:30

一場 修 神父

(新) 毎木曜日 14:00 菅原 友明神父

【桃山教会】 毎火曜日 15:00 菅原 友明神父

◇南部地区信徒養成講座◇

(6F会議室/毎月1回水曜日)

大塚 乾隆神父「典礼を学ぶ」

10月 4日(水) 10:30～11:50

11月 1日(水) 10:30～11:50

◇南部地区信徒養成講座◇

(1F集会室/毎月1回木曜日)

北村 善朗神父「祈りを学ぶ」

10月 19日(木) 14:00～15:00

11月 16日(木) 14:00～15:00

テキスト:『カトリック教会のカテキズム要約』

◇主日の福音を読む集い◇

(3F・301号室)

毎週日曜日 9:30～10:15

※どなたでもお気軽にご参加ください。